

編集 後記

年の瀬が迫り、お忙しい毎日をお過ごしではないでしょうか？本誌が届く12月は、新型コロナウイルス感染症の話がでてきてからちょうど3年になります。前回担当した2021年3月の編集後記では、個々の違いや多様性について思うところを少し書きました。その後1年半、個々の行動様式の分散はさらに大きくなっていると思います。

さて、第69巻第12号は1編の特別論文、2編の原著論文、2編の資料をお届けさせていただきます。

第1編は、第79回日本公衆衛生学会で実施されたシンポジウム「年代別ひきこもりの課題、予防、対策」についてまとめた特別論文です。年代別に「ひきこもり」や「閉じこもり」の特徴とその対策についてまとめてあります。

第2編は、結核患者受け入れに対して高齢施設職員が抱く不安の関連要因について、地域内の高齢者施設の全職員に質問紙を郵送して明らかとした原著論文です。介護士やヘルパーといった職種では、看護師やケアマネジャー、医療介護専門職以外といった職種に比較して受け入れ不安が多く、また、退院後の結核患者と接した経験や施設内で結核患者が発生した経験がない者では、実際に経験した者に比較して不安が多いことが明らかとなりました。

第3編は、子宮頸部細胞診とHPV検査に関して、同一人において医師採取と自己採取での細胞診結果やHPV検査の結果を評価した原著論文です。自己採取の1か月前に医師採取を行わざるを得ず、順序が一定であるというプロトコル上の限界はあったものの、医師採取と自己採取との間に細胞診の結果における有意な差は認めなかったとしています。

第4編は、母子保健情報の利活用について、市区町村における乳幼児健康診査等の電子化実施状況を調査し、情報利活用における課題を明らかにした資料です。9割以上の市区町村で、最低限電子化すべき項目が電子化されていましたが、情報連携の実施は1割程度に留まっていることが明らかとなり、都市部及び大都市周辺の市区とその他の市町村ではニーズが異なっていることも示されました。

第5編は、COVID-19感染拡大に伴う緊急事態宣言期

次号予告（第70巻・第1号）

原著

食環境の認知およびヘルスリテラシーと健康日本21（第二次）の食行動の目標との関連

……………坂口景子，他

高齢者の健診結果と死亡・要介護発生との関連：

国保データベース（KDB）システムを活用した分析……………栗田淳弘，他

資料

多重介護の現状と課題：介護支援専門員を対象とした調査より……………佐々木晶世，他

地域住民の成人歯科健診における歯周ポケット検査と糖尿病発症の関連性：LIFE Study

……………谷直道，他

間における、地域住民の医療機関受診控えや受診困難状況について、健康アプリ「アスマイル」を用い、診療科別に検討を行なった資料です。内科と歯科に関し、2020年度で60%程度、2021年度でも30%弱の「受診控え」が報告されています。慢性疾患で急を要しない場合が多かったものと考えられますが、適切な受診方法の代替手段を日頃から検討しておく必要性が考えられました。

コロナ禍後を見据えつつ目の前の対応を継続するフェーズに入り、しばらくたちます。新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種も、早い人だと5回目接種が済み、接種回数だけ見ても分散が大きくなってきています。考え方の違いや多様性を受け入れながら、全体のダメージを最小限に抑えソフトランディングするといった難題は、日本ならではの達成しがいのある目標ではないかと思っております。

編集後記末尾になりますが、本誌では公衆衛生の多岐にわたる多様な原稿を掲載しています。引き続き、会員の皆さまの積極的な投稿をお待ちしております。

（目時弘仁）